

早期出荷に向けた春まきニンジンの被覆除去日

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

県西部地域の春まきニンジンには3月上旬播種されるため、霜除けと保温による生育促進のため、播種後から5月上旬頃まで不織布によるべたがけ被覆を行い、6月上旬からの出荷を目標としている。近年は、春先の低温、乾燥等の影響により、収穫が6月10日以降に遅れる場合が多く、また、気温が上昇し始める7月上旬頃からは腐敗が多く発生することから、出荷期間が限定され、生産現場からは出荷期前進化による作期の拡大が求められている。そこで、6月上旬からの安定出荷に向け、べたがけ被覆除去日の違いが春まきニンジンの生育および収量に及ぼす影響について検討したので紹介する。

(2) 情報・成果の要約

- 1) ベたがけ被覆除去日を4月30日頃（本葉約5枚を目安）と慣行（5月6日頃）よりも1週間程度早めることで、被覆除去後の肥大が早く進み、収穫前半（6月上旬）の収量確保に有効である。
- 2) 4月30日頃のべたがけ被覆除去による、抽苔への影響および降霜による被害は認められていない。

2 試験成果の概要

2010年、2011年、2012年の3か年において、べたがけ被覆除去（追肥）日の違いが春まきニンジンの生育および収量に及ぼす影響について調査した（表1）。

表1 試験区の概要

試験年 (調査日)	播種日	被覆除去日 (追肥日)	被覆除去時の 本葉数(枚)	共通管理
2010	3月1日	4月26日	4.2	①品種‘ベータ312’（サカタのタネ） ②畝幅120cm、4条播種（クリーンシーダーTP-2000） ③被覆除去日に間引き後、腐植有機はまかぜ1号(10-10-10)を60kg/10a追肥 ④施肥量 N:P ₂ O ₅ :K ₂ O=10.8:10.8:10.8 kg/10a (元肥=4.8:4.8:4.8)
		4月30日	5.1	
		5月6日(慣行)	6.9	
2011	3月1日	4月28日	4.5	
		5月6日(慣行)	5.5	
2012	2月29日	4月30日	5.3	
		5月7日(慣行)	6.7	

(1) 生育

べたがけ被覆除去日を慣行より1週間程度早い4月30日頃（本葉約5枚を目安）とすることで、被覆除去後の肥大が慣行よりも早く進み、何れの調査年においても6月上旬の地下部および地上部の生育は慣行に勝った。一方、被覆除去日を4月26日（本葉約4枚）と更に5日程度早めた場合、肥大がやや緩慢であった（表2）。

(2) 収量

4月30日頃の被覆除去は、慣行よりも肥大が早く進んだことから、何れの調査年においても、6月上旬から中旬にかけての上物収量が慣行に勝り、1~3割の増収となった（図1）。

(3) 抽苔および降霜

何れの調査年においても、被覆除去日を慣行より1週間程度早めたことによる抽苔への影響および降霜による被害は認められなかった。

